



# 川柳セラピー

70歳を過ぎた父が、だんだんと声が出なくなると約1年。父を愛してやまない母の、やいのやいの「病院行け」攻撃に降参し、病院へ行ったときには、ステージ2の喉頭がんとステージ1の食道がんを患っていたのでした。今まで健康だった父ががんにかかったということ、家族は大騒ぎ。山ほどの検査の後、放射線治療のため、入院したのでした。

最初は順調だった入院生活。しかし、持病の糖尿病のため、食事は薄味。量も制限され、どんどん落ち込んでいきました。

「帰りたい。たくさん食べたい」  
何度この言葉を聞いたか分かりません。ある日のお見舞いでのこと。ナースステーションに川柳が飾ってありました。

「がんなのに 楽しい食事はヤギのエサ by てつぞう」

うちのお父さんだ……。聞けば看護師長さんが、父があまりに落ち込むので、川柳を勧めてくださいったそう。「俺は書きたくなかった」。そう言う割には評判は上々のようで、ほかの患者さんからも感想が寄せられ、友達もできたようでした。ときどき、川柳が変わります。

「再発が 怖くてタバコ やめました」

「酔えないの ここは病院 仕方ない」  
良しあしはともかく、真面目に生きてきた父らしい川柳です。院内の広報誌に作品を掲載していただいたことでもあります。退院の日、ナースステーションへあいさつに行ったときのこと。

「がん治療 ついでに糖尿 治ったよ」  
父の退院ということで、一緒に迎えに

〈青森県〉類家るいけ 梢こずえ 41歳

来た母は大笑い。しかし、ここは病院。ぱつと口を押さえたのでした。10年間、糖尿病の薬を飲んできたのに、がんの治療に来て食事療法のおかげで血糖値が正常になったのですから。退院して3年経った今も、すっかり薄味食が身に付き、血糖値は正常です。

父は今も再発も見られず元気で過ごしています。心の支えを川柳という形で提案してくださった看護師長さんにも感謝です。